

著作権処理状態管理システム開発仕様案概要

平成 23 年 1 月 31 日

一橋大学附属図書館

著作権処理状態管理システム開発仕様案は、2 部構成であり、第 1 部の「システム仕様」では、著作権処理状態管理システムが有すべき基本的な機能を仕様として挙げている。第 2 部の「求められるシステム・機能」では、全国ヒアリング調査を行った大学からの要望を、システムや機能の要件として表現している。

第 1 部「システム仕様」は、「標準的雑誌論文著作権処理ワークフロー案」および「システム全体図」をシステム要件として表現したものであるが、以下の特徴を持つ。

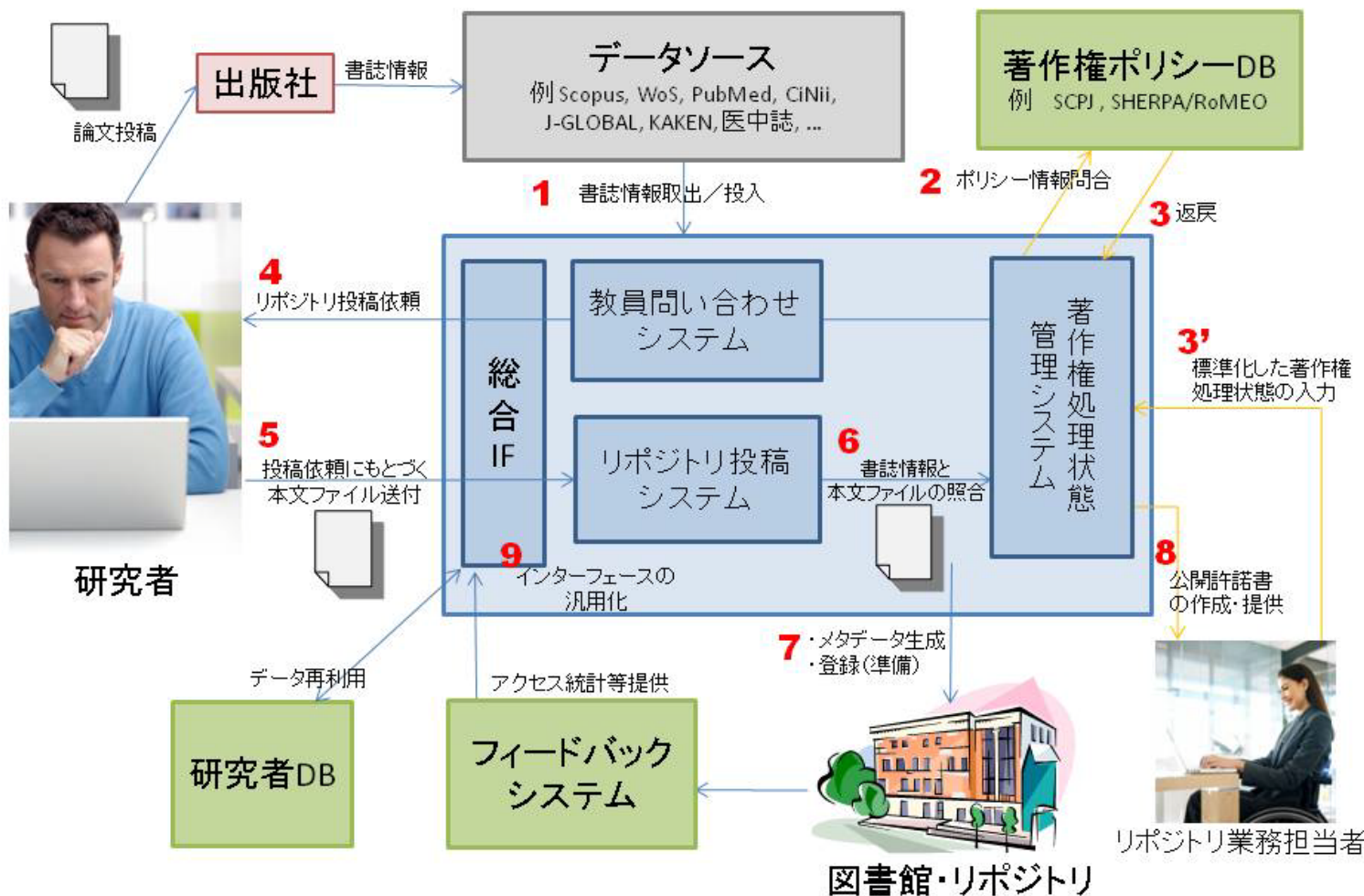
- ① 各機関リポジトリでの様々な研究成果把握方法に対応するため、状態遷移の順序に、かなりの自由度を持たせている。
- ② 各機関リポジトリで、ローカル出版者 DB を持っているところが多かったため、ローカル出版者 DB を構築する機能を持たせている。
- ③ 共著者への許諾を機関リポジトリ事務局で行っている場合もあるので、共著者への許諾依頼を行える機能を持たせている。
- ④ Excel 形式での入出力を可能にし、ローカルのデータとの連携がなるべく容易になるよう配慮している。
- ⑤ SWORD プロトコルにより、DSpace1.5 以上、WEKO 等の SWORD 対応している機関リポジトリソフトウェアへの自動登録を行える機能を持たせている。

第 2 部「求められるシステム・機能」は、著作権処理状態管理システムが、広く利用されるために望まれるシステム形態や機能を記載したものであり、まとめると、以下の 4 点である(全体像は「システム全体図(開発仕様案)」になる)。

- ① システム導入のハードルを下げるための SaaS としてのサービス形態。NII の学術クラウドの利用などの方法が考えられる。
- ② システムの部分的導入を可能にするためのサブシステムのモジュール化。
- ③ 出版者問合せ負担軽減のためのローカル出版者 DB の共有化。
- ④ 機関リポジトリと研究者 DB の連携を高度化するための研究者 DB との密接な連携。

システム全体図

文献自動収集・登録ワークフローシステム



システム全体図(開発仕様案)

文献自動収集・登録ワークフローシステム

